

## 【杉戸町】 校務DX計画

杉戸町は校務支援システムを早期導入するとともに、教員の働き方改革を推進してきました。1人1台端末導入後は、授業支援ソフトウェアやクラウドツールを活用し、児童・生徒への各種連絡のデジタル化を進めてきました。

また、令和5年度には保護者連絡システムを新たに導入し、教員と保護者間の連絡（保護者から出欠連絡、学校からの配布文書等）をデジタル化しました。教員間においては、校務支援システムのグループウェアやクラウドサービスを活用し、伝達事項、各種資料及び教材をオンラインで共有しています。

このように、各種デジタル化・オンライン化を進めてきましたが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多くみられるのも事実です。そのため、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定めます。

### 1 ゼロトラスト環境の構築

#### (1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

杉戸町では、教育ネットワークを児童・生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、ホームページの編集、児童・生徒が教育活動で利用するなど、インターネットに接続して業務を行う「学習系」の2つに分離し、インターネット経由等から児童・生徒の個人情報等にアクセスできない構成としました。

教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じたうえで、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

#### (2) 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムはオンプレミス型（町役場センターサーバ上）で運用しており、教務・保健・学籍・成績管理など幅広い業務で利用しています。

保護者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、先進自治体の動向を調査したり、情報収集をしたりします。そして、校務支援システムの次期更新時のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計、調達事務等を進めます。

### 2 FAX及び押印の見直し

令和5年12月に文部科学省より発出された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されています。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、町教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。

あわせて、各学校に対して、外部へ児童・生徒の個人情報など機微な情報を送信する際の注意事項等について周知啓発します。

### 3 ペーパーレスの推進

これまで杉戸町では、校内の職員会議等において、校務サーバ等に保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムのグループウェア機能でマニュアル等を共有したりしてきました。

児童・生徒1人1台端末導入後は、保護者連絡アプリによる教員と保護者間の連絡のデジタル化、児童・生徒への各種連絡のデジタル化、職員間の情報共有のデジタル化や研修資料のアーカイブ化により、ペーパーレス化を推進してきました。

今後は、学校間をまたぐ会議等においても、授業用端末をはじめとするクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化を一層推進します。

### 4 その他

#### (1) 校務における生成AI等の活用

リーディングDXスクールの生成AIパイロット校の取組を参考とし、生成AIを活用した校務の効率化を推進します。

#### (2) デジタル採点システムの活用

デジタルドリルの活用が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっています。杉戸町では令和6年4月よりデジタル採点システムを各中学校に導入し、ICTを活用した採点業務の効率化を図っています。引き続き、働き方改革の視点からもデジタル採点システムのより効果的な活用法について調査研究を進めます。